

教師ノート

日付	2013年10月27日
単元	創世記・3
テーマ	罪から救い出してくださる神様
タイトル	ソドムから逃がしてもらうロト
テキスト	創世記 19:1-29
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ローマ 6:23
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 巻 1 題 10 課
メモ(情報・例話など)	<p>今週は、アブラハムの甥ロトを通して、神・罪・救いを伝えます。この箇所での強調点は二つあります。第1ポイントは、罪の恐ろしさと、罪に近づくことと、その中に留まることの恐ろしさを伝えましょう。子ども達は罪の恐ろしさを分かっていません。また、何が罪であるかも分かっていません。罪には必ず痛い代償があることをしっかりと強調して、罪に誘う人や、罪から離れることこそが、神の御心であることをしっかりと伝えましょう。しかし、<u>強調するあまり不安と恐ろしさだけが残らないようにする必要もあります</u>。そのため、第2のポイントがもっとも大切になります。それは罪からの救いです。神は罪から離れて悔い改めるなら、必ず赦してくださるお方であることを伝えましょう。子ども達が悔い改め、主イエスを自分の救い主として心に迎えらるる決心ができるように、メッセンジャーはしっかりと聖霊の導きを祈りましょう。</p>
□導入	<p>興味を起こす質問をしましょう。 今日は、アブラハムの甥ロトの話です。甥って知ってますか？甥を説明しましょう。ロトさんがソドムの町に住んでいました。</p>
□ポイント1 神様の前に罪を犯し続けてきたソドムの町。(1-9)	<p>アブラハムの甥ロトはソドムに住んでいました。彼は、もともとソドムの外に天幕を張っていましたが、次第に町の中に引越すようになったようです(13:11-12)。見た目に経済的に安定していて、繁栄している様に見えた所にひかれたのでしょう。しかし、アブラハムと暮らしていたロトにとって、ソドムの住人になり切る事はできなかつたようです。何故なら、ソドムは完全に神に敵対する人々の町だったからです(13:13)。結果的に彼は、どっちつかずの中途半端な立場になってしまったようです。ロトは罪に悩んでいました。アブラハムと一緒にいた時は、神中心の生活にほとんど強制的になっていたはずですが。またアブラハムを通して、多くの神の恵みをロトは体験したはずですが。ロトは御使いが町に来るとすぐにわかり、自分の家に招きいれました。しかし、その喜びは続きません。町の住人は、外から来た二人が神の御使いとは知る余地もありません。捕まえてひどいこと(性的乱暴)をするためにロトの家を取り囲みました。19:4に町中の隅々から、老若男女問わず集まったとあります。そのことから、いかにソドムの町が霊的・精神的に荒廃していたかが分かります。</p>
☞	<p>旅人を迎え入れた事は、アブラハムと同じでロトの良い面の現れでしょう。しかしその反面、娘達を暴徒に差し出そうとしたり(19:8)、ソドムの住民を兄弟達と呼びました(19:7)。また、娘達をソドムの住民に嫁がせようなど、ソドムの悪い罪の影響を受けていたことが分かります。このところからも、罪の中に入れば、人は誰であろうと(クリスチャンであろうと)悪い影響を確実に受けることが分かります。</p>

☞ 神様を信じていても、教会から離れてしまうと私達もロトと同じになってしまうことを伝えましょう。

☞ カナンは性的罪の大きい土地でした。ソドムはその中でも最悪の町で、同性愛者と暴力の支配する町でした(19:5・9)。ロトを受け入れていたのは、以前アブラハムに、ソドムの町が助けられたことがあったためと思われる。(創世記14章)

□ポイント2 救いの約束と最後の警告。(10-22)

ロトは必死でやめるように説得しました。しかし逆に、町の人たちにひどい目にあわされそうになります。ソドムの滅びは決定的でした。御使いは人々に目つぶしをくらしロトを助け出しました。御使いはロトとその家族だけは、罪の罰から救おうとしてくださいました。しかし、ロトは直ぐにこの導きに応答できませんでした。たぶん、多くの財産や家を持っていた彼らは、それを置き去りにするが惜しかったのでしょう。ソドムから出るのをためらっているロトの家族を、御使いは強制的に外に連れ出しました。御使いは、彼らに命がけで逃げなさいといいました。しかし、振り返らずに遠くに逃げられないと訴えるロトを、彼の願いのとおりに近くの町に逃げて助かるようにしてくださったのです。

☞ 滅びの兆候が人の目には判断できにくいことが、ロトのためらいからわかります。主の日は盗人のようになると第一テサロニケ5:2-3にあるとおりです。また、ロトの家族が救われたのは、彼の信仰の故ではなく、神様の哀れみ(19:16)とアブラハムのとりなし(18:22-33)のおかげなのです。

☞ 罪から離れるほうが良いと、誰しもが思うものです。しかし、ロトのように逃げ切れないと、すでにあきらめてしまっている子ども達もいるかもしれません。メッセージの中でそのような子ども達に、ロトを助けたように神は必ず助けてくださることを強調しましょう。

□ポイント3 神様に従う人は救われます。(23-29)

ロト達が御使いと約束した町につくと同時に、神の裁きが始まりました。「罪の支払う報酬は死です。」ローマ6:23とあるように、それは死の裁きでした。神の罪に対する徹底的な裁きが描かれています。神に従ったロト達以外に、ソドムで助かったものはいませんでした。しかし、油断は禁物です。罪の罟は絶えず私たちの心に、誘惑を仕掛けてきます。ロトの妻はその誘惑にかかり、神との約束を守れませんでした。それは、エバの犯した罪とよく似ています。ロトの妻は、塩の柱となってしまいました。ロトと娘達は救われました。

□結論: 神は徹底的に、罪を嫌われるお方です。私たちも徹底的に、罪から離れる決心をする必要があります。しかし、ロトの妻のようになるのではと、恐れが来るかもしれません。だからこそ、自分の力で離れる努力をしないで、ロトのように神に助けをいただいて、罪から離して頂くことが大切なのです。神は助けを求めるものを必ず助けてくださいませ。 暗唱聖句を読み上げませ

□適用

ロトが罪の町ソドムから逃げられなかったように、私達も、自分の力では罪に勝てません。イエス様だけが罪に勝ってくださったお方です。神様は私達が罪に弱いことをよく分かっています。神様は必ず私達を罪から助け出してくださいませ。きみやお友達がしていることが罪だとわかったら、そこにはいけないよ。振り返らずに、きっぱりと罪から離れませ。さそわれても、いやだといひませ。罪につかまらないように負けないように、毎日神様に守ってくださいとお祈りませ。